

Q：大島紬反物を着姿状態にできるソフトがありますか。

A：着物の装着イメージは、単純な縞・格子や小柄模様など着物になる前の反物状態でも、体の前に反物を垂らして鏡に映せば容易にわかります。

しかし、大柄や反物幅に極端に異なる模様が配列されている反物ではそうはいきません。これを解決するため、県では大島紬反物をコンピュータ上でモデルに装着できる「着姿シミュレーションソフト」を開発し、既に1組合と5企業で利用されています。

具体的な操作は、まず反物をA3スキャナで取り込むか、大島紬専用のWindows版CADで作成した仕上がり想定図データを使用して繰返模様を作成します。次に、このデータをソフトに取り込み移動や反転を行い、白無地立体ベース画像への自動貼り付けで完成です。2次元なので多方向からの検討はできませんが、正面ポーズと衣桁掛けでの全体模様を確認できます。ソフトは和裁で行う裁断作業と同等の機能があり、帯・帯揚げ・帯締め・草履など着物に合わせたコーディネートもできます。

さらに、写真のような陰影のある白っぽい立体画像を撮影し、パーツ毎にマスクと画像変形用メッシュを作成すれば、着物分野以外への応用も可能です。



写真 着姿シミュレーションソフト

OSは、Windows2000/XP/Vista/7で動作しますが、最近のパソコンは性能が向上していますので短時間で処理できます。本ソフトは共同開発した企業から購入できませんが、大島紬部では独自に作成した高解像度のベース画像等も所有していますので、詳細は当センターにお問い合わせください。（企画支援部）

Q：工業製品の放射能汚染に関して、汚染原因や輸出製品の規制状況・放射線検査などについて教えてください。

A：東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、工業製品の輸出において、輸入者から「輸出貨物が放射能に汚染されていないこと」に関する証明書を求められる事例が見受けられます。また、輸出しない場合でも、風評被害を避けるため、安全・安心のために確認したいといった要望から、検査を求められることがあります。

工業製品の放射能汚染の原因としては、以下の3つが考えられます。

- ① 事故後に、製品や部品を屋外にむき出しで置いていて、放射性物質が降下した。
- ② 放射性物質が降下して、汚染した場所に製品や部品を置いた。
- ③ 製品の材料中に放射性物質が混入した。

①、②の場合は、製品の表面に付着しているだけなので、洗浄すれば除染できます。③のように材料中に混入している場合は、その箇所や部品を交換する必要があります。しかし、木製品や加工食品といった農作物を主原料とする工業製品以外では、上記の①、②が原因となる例が多いようです。

この農産物を主原料とする加工食品については、生産県指定（宮城、福島など）による輸入規制や各品目毎に規制値が定められています。諸外国による放射線検査やその規制値などは、JETROのホームページ（<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>）で最新情報が確認できます。

放射線検査に関しては、当センターでも、その体制を整えられるよう準備しているところですが、現状では、核種（セシウム137、ヨウ素131など）の検査や諸外国が示す低いレベルの放射線測定に対応できないのが現状です。このため、他の測定機関をご紹介しますので、必要な方はお問い合わせください。

また、放射線に関する基礎知識や測定方法等に関して、東京都立産業技術センターが中心となって、全国の鉱工業試験研究機関の情報をまとめた「放射線・放射能の基礎と測定の実際」という冊子があります。当センターでも無償で提供しておりますので、興味のある方は、ご連絡ください。（生産技術部）